

たるが、上野前人事課長に依りて遂に労働者の敗北を見、惨敗者の會を最後として罷業を打切りたり。當時麻生氏は足尾に急行したるも所詮勝つべき術なかりしを以て「此上は潔く敗れよ」と見苦しからざらんことをのみ指揮したり。此時の苦き經驗あると、全日本鑛夫總聯合會足尾聯合會精鍊部長磯貝代次郎病氣のため、精鍊部は今回の舉に行動を共にせず、三山の罷業者が苦境の極にあるとき、精鍊の煙は團々として足尾の天を舞ひ、三山労働者呪いの府たるの觀あり、麻生氏は十二日本山城崎座に於ける家族大會にも「精鍊の煙を止めろ、精鍊の職工は人間でないか蛇か鬼か」と絶叫したり。精鍊部にては此形勢に對し職工の往來を保護する施設をなし、極力對抗しつゝあるを觀取したる罷工團は十三日夜十時三の方の入所時に際し、選抜隊約三十名をして突如門を押し開きて所内に侵入せしめ、入所職工をさらひ出したるため精鍊部は運轉上に一大支障を來さざるを得ざりき。是に對し同夜精鍊所側は先づ精鍊労働者が本山支部前を通らずとも所内に入り得るよう特別に假橋をかけ大電球を點し、宮本所長以下役員總出にて驅り出しに努めたるも、如何ともすべからず。當夜は多數の警察官と、革命歌を高稱しつゝ赤旗を振つて示威する罷工應援團との間に殺氣漲る對時をなしたるが、十四日一の方よりの入所者は職工八十七名中二十九名に過ぎず、同日午後一時より精鍊部は本山支部に臨時大會を開き

一、十四日三ノ六より正式に罷業す

一、幹部中一名たりとも誠首を受くる者ある時は再罷業をなす。

と決議し八ヶ條要求を、精鍊部も亦要求する事となれり。同時に萬一の日のため後繼幹部の選舉を行へり。前掲決議第二項は幹部が此事件のため後日一名たりとも誠首されなば再罷工をなすべしとせるにて、同日此決議を携へ本山城崎座の三山労働者大會に臨めり。一方精鍊所にては、役員技術員、新雇土方と殘留職工の一部にて三個の熔鑛爐をたきたるも、十五日に到り熔鑛、鍊銅、調鑛の三部にて出勤者二十五名に到れるため遂に熔鑛爐三基中の二基に吹下げを斷行し、一基僅かに煙を吐くのみとなり、それすらも持續を危まるゝに到れり。精鍊罷業して完全に残るは工作部のみとなれるが是すら今や漸く動搖の徵見ゆるに到りぬ。

▽棚橋氏の足尾着 十四日運動本部は、誠首者慰問隊を組織して各戸に訪問せしむるところあり。午後三山労働者二千五百通洞驛に集合し、三時四十分通洞驛着の棚橋氏を迎へ、示威行列を爲しつゝ本山城崎座に到る。花道、舞臺裏まで立錘の餘地なし。此間麻生氏は棚橋氏を場外に拉し、解決の機運漸く動けるの情勢を説き、論陣の按梅を求め、且其滯留を乞へり。棚橋氏は翌日歸京する豫定なりしを變更し滯留に決し、當夜労働者が警官横暴を熱叫して止まざるに對し「警官と争ふ奴は馬鹿だ、敵は資本家である」てふ程度に穩健に説述せるを見るも兩氏の心中妥協の期は眼前にありとしたる事察せらるべし。此演說會中、前記の如く精鍊労働者約二百名、「三の方より罷工す」との決議文を